

地域防災活動の重要性

大規模な災害が発生した場合、行政機関だけで災害に対応することは、極めて困難な状況となります。災害による被害を最小限にとどめるには、自分たちの地域は自分たちで守るという気持ちで、地域の皆さんが「力」を合わせて行動することが重要です。



地区防災計画を作しましょう

地区防災計画は、地区居住者等により自発的に行われる防災活動に関する計画であり、防災活動の主体、地区の範囲、計画の内容など、各地区の特性や想定される災害等に応じて自由に策定できます。いざという時のために、災害が想定されるときに、誰が地域の避難所の鍵を開けるか等の取り決めをしておく事で、有事の際の指針になります。

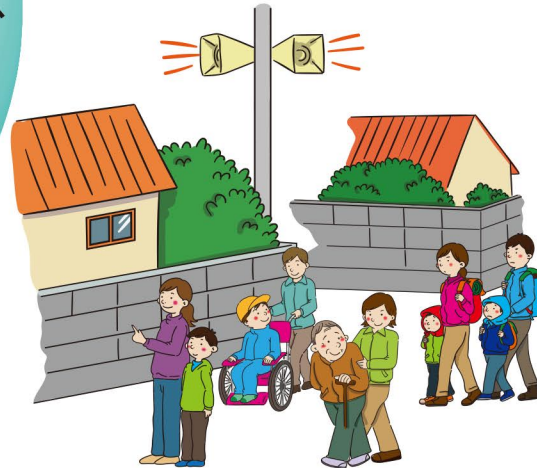
※町総務課では策定のバックアップをしております。



地区防災計画の策定メリット

① 災害における被害の軽減や迅速な対応

地区のルールを自ら決めて共有するとともに、実践的な訓練等を実施することで、自助・共助の意識が高まり、災害による被害の軽減や迅速な復旧・復興につながります。



② 地域コミュニティの維持・活性化

住民参加型の取組プロセスを通じて、地域コミュニティにおける良好な関係づくり、地区の実情に応じたきめ細かい「まちづくり」にも寄与することが期待されます。

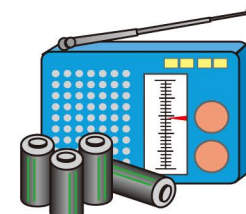
③ 地域住民の防災意識の向上と地域の特性について見直しができる

災害はいつ起こるか予想ができません。地区防災計画の策定をとおして、地域住民の意識の向上や、地域の危険箇所や過去災害の被害があった場所等の確認ができます。

非常時持出品(例)

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



- 救急セット
- 常備薬(持病の薬など)

感染症対策

- マスク
- 手指の消毒液
- 体温計

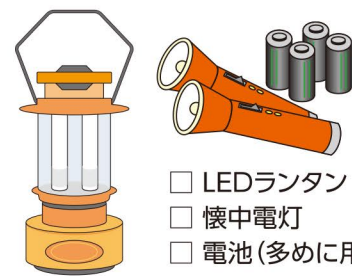
非常用食品



火を通さないで食べられるもの

- 飲料水
- 乾パン
- 缶詰
- アルファ米
- 飴・チョコ

ライト類



- LEDランタン
- 懐中電灯
- 電池(多めに用意)

その他



- 現金(小銭多めに)
- ホイッスル(助けを呼ぶため)
- 着替え
- ウェットティッシュ
- 歯ブラシ
- スマートフォン・携帯電話の充電器
- モバイルバッテリー
- タオル
- ラップフィルム(止血や食器にかがせて使う)
- 割りばし
- 紙皿・紙コップ
- 新聞紙
- ビニール袋
- 耳栓・アイマスク

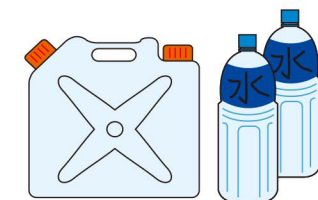
各家庭に必要なもの

- 赤ちゃん用品(ミルク・離乳食・おむつなど)
- 生理用品
- コンタクトレンズ・めがね
- 入れ歯・補聴器
- リュックサック

非常時備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低限3日、推奨7日)を生活できるようにしましょう。

飲料水



- 飲料水(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したタンク

非常用食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料
- ドライフーズ・飴・チョコ(菓子類など)

燃料



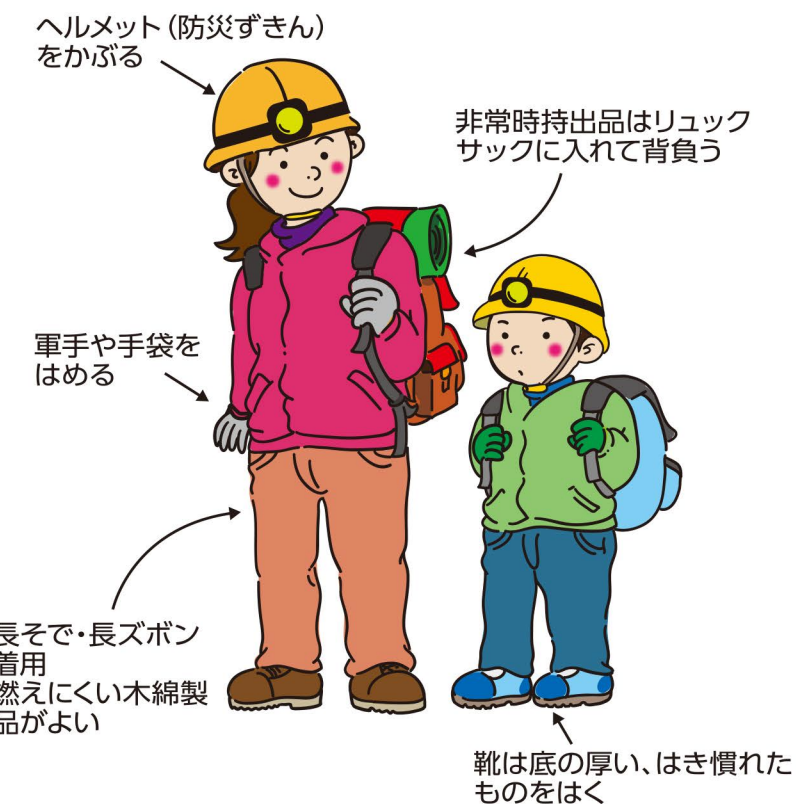
- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品
- 歯みがきセット・ひげそり

避難するときはこんな格好で



帰宅困難に備えよう

大地震が発生した場合、交通機関の途絶によって自宅に戻れない「帰宅困難者」になる可能性があります。勤務先や学校から徒歩で帰宅することを想定し、日ごろから準備しておきましょう。

防災グッズを用意する

携帯ラジオ、ヘルメット(防災ずきん)、スニーカー、非常用食品、懐中電灯、軍手袋、地図、寒暖対策用品など。

帰宅地図を用意する

災害の状況によっては、道路が通行不能になる場合があるので、複数の帰宅ルートを決めておくことがよいでしょう。

家族との連絡方法を決めておく

地震が発生すると、家族や親戚とは簡単に連絡をとることができません。事前に以下のような項目に関して、家族全員で確認しておくことが重要です。

- 災害時の安否確認の方法
- 家族の集合場所
- 徒歩帰宅する場合のルート

